

津軽の海

(昭和九年寮歌)

星勇君 作歌

白石祐義君 作曲

一

津軽の海渦巻ける奥

オホツクの寒潮咆哮えて

雄健き名ぞ蝦夷が島根に

年古りし恵迪の寮

旅寝とな言ひし三年を

揺籃の高夢を追ふなり

三

清明の水に浮べる

宵月の影はさやけし

酒觴をめぐらしかさね

熊熊の声聞くもすべなし

たぎりゆく若き血潮に

限りなき感激をしたふ

五

恵迪の館を訪ひし

竜田姫佐保神三たび

若人の生命捧げし

想ひ出の自由の宴遊

永劫に若き一日の

夢とせむ榆鐘の調べを

二

寂寥の歩行はこびて

茂みさぶる森に仰臥し

先人の詩になぞらへ

陳腐なる歌を恥ぢらふ

ただ仰げ自然の姿

そは深き黙示をきさむ

四

六十にも齡うつろひ

集ひたる寮友は兄弟

伝統の永遠の記念と

感激の寮史も成りぬ

情懷深く唯魂が

魂と結び輝く

六

黎明は曠野の際涯

雄叫びと共に来れり

満蒙の長夜の闇も

晴れんとす起てよ寮友

青春の象牙の塔を

いざ出でむ時は到れり

七

北溟の自治の牙城を

蒼穹高く巢立つ寮友

澆季の世救はんは汝れ

済世の烽火あぐべし

忘れ得ぬ恵迪の歌

高唱ひゆけ正義の大道を